

第6回会議での主なご意見（保育の見える化について）

※事：事業者、保護：保護者

| 発言者 ※ | | ご意見 |
|--------------|----|---|
| 保育制度全般に関すること | | |
| 1 | 保護 | 1、4の項目について、前回の会議後に、どのようにすれば（施設の種類ごとに）ランクづけをしないようにできるかを考えた が、意外と難しいと思った。掲載順はつけざるを得ないため、並列に見せることは難しい。イメージとして、ホームページであれば このような感じで、どこも上になっていない、順番がないようなもので、クリックするとそれぞれのページに飛ぶようなものが並 列と言えるのではないか。幼稚園の情報をその中にどのように入れていくかは悩ましいところである。 |
| 2 | 事 | 私ども認証保育所は、保育の一覧表を見ると一番後ろにあり、一生懸命やっているのになぜもっと認めてもらえないのかと思う。 認可保育園を中心としているからこのようなランクづけになっているのではないか。保護者からすると、練馬区のこどもであればみ んな一緒だと思う。区が行う認可保育施設等の運営状況の見える化なので、区が認可保育園を一番にランクづけしているのではな いかと感じる。 |
| 3 | 事 | 自分が住む地域の保育施設のマップは見やすくできたら良いと思うが、無認可の保育所も入るかを確認したい。無認可の保育室に おいて事故など悲しい状況もあったが、預けている練馬区のこどももいて、使わざるを得ない人もいる。無認可なので認めていな い、区とは関係ないというようなニュアンスを受けるが、入れた方が良いのではないか。 |
| 4 | 事 | 私は家庭的保育事業を個人宅で行っているが、ここ数年でアパートやマンションの一室を借りるなど、自宅とは別の場所で保育室 を開設する保育ママも増えてきた。東京都の「こぼる（※とうきょう子供・子育て施設ポータル）」というサイトで、住所を入れる とその地区の認可保育園が地図上で出るページがある。認可保育園の場所は地図上でワンクリックで出るが、保育ママの場合は個 人宅で運営しているため個人情報の配慮があり、更に施設一覧をクリックしないと出てこない。個人情報は守られているが、保護 者からすると施設一覧をクリックするところが分かりにくい。様々な種類の保育事業があるので、扱いが難しいのだろうと思う。 |

冊子『保育利用のご案内』に関するご意見

| | | |
|------------------|----|--|
| 5 | 保護 | 分冊については、私の発言ではないが、認証保育所や家庭的保育事業などは、冊子の後半のほうまで見なければ出てこない。最初に全体像があり、その後にそれぞれの事業を詳しく説明したページが2ページずつあり、あとは全部分冊のイメージである。既存の保育利用のご案内に新たに分冊を付けるのではなく、保育利用のご案内はそれぞれの事業の概要だけをまとめたエッセンスにして、各事業の詳細は分冊というイメージである。 |
| 6 | 保護 | 分冊について、保育利用のご案内の冒頭にチャート図のような並列に掲げるものがあり、小規模保育、大規模保育を求める方はそれぞれこのページから、というように誘導すれば、必ずしも分冊は必要ない。保育利用のご案内の冒頭にチャート図を設ければ済むと思う。現状は、保育利用のご案内と別冊保育園等一覧だけか。 |
| 7 | 保護 | 認証保育所の別冊子を1冊にまとめて冒頭にチャート図を設ければ、一番作り易くお金もかからなくて良いのではないか。 |
| 8 | 事 | 現状、区立保育園が最初であり、一日の流れなどどのような保育を行っているかが割と丁寧に記載されていたと思う。小規模保育園などは当然個々に違うので掲載は無理だと思うが、各園で異なるといった雑な印象を与えるような表記になっている。フォーマットを共有化して、区立保育園も私立保育園もある程度フォーマットが同じような形で併記すると良い。 |
| 各施設の具体的な情報に関すること | | |
| ホームページについて | | |
| 9 | 保護 | 8、12～17の項目について、区ホームページへ施設の情報を掲載とある。当然ホームページに掲載したほうが良いが、一定の基準のテンプレートをつくらないと、ホームページを作成して情報を提供することの上手い、下手で差をつけることはおもしろくない。例えば、ある一定の情報を区が主導的に掲載し情報を更新するなど、一体になってホームページを提供できると良い。 |
| 10 | 事 | ホームページについて、認証保育所は保育力強化事業で2年に1回、第三者評価を受けなければならない。第三者評価を今年受けたが、保育者の緊張感が高まり、より良い保育をしようと職員会議など行っている。区で費用を助成していただきありがたいと思う。これからもよろしく願います。 |
| 11 | 保護 | ホームページをつくる、見学の受入れなどのために業務が増加して、こどもと向き合う時間が減ることは本末転倒だと思うので避けてほしい。ホームページ内に共通フォームをつくとあるが、そのように区が主導で進めていくと良い。課題や留意点として、保育士の業務量の増加があっても良いと思う。 |

| | | |
|----|----|--|
| | | ソフト面について |
| 12 | 事 | 13の項目の人件費率について、それぞれの保育事業で制度が違う中で補助金をもらっている状況で、人件費率だけを割り出す意味があるのか疑問に思う。運営のあり方を知りたいのであれば、人件費率だけを取り出すのではなく、全体を見ないと経営の中身は分からない。人件費率だけを出すのは意味がないと思う。各園どのようにされているかは分からないが、ホームページに決算書が掲載されている。 |
| 13 | 事 | 13の項目のソフト面について、職員が継続して働き続けている職場は安定した保育が行われているのではないかと想定できることはよく分かる。継続して勤めることができる職場をそれぞれの事業者は目指していると思うが、一方で保育園は非常に女性が多い職場であり、結婚、引っ越し、子育てなど、やはり男性よりも人生の転機が大きく影響する部分はあると思う。実際に私の園でも、退職者が多いときと続けたいと残ってくれるときがある。その波を一時的なもので捉えられることは本意ではない。 |
| | | 保育施設の空き状況について |
| 14 | 事 | 保育施設の空き状況の公開とあるが、現状は区が各月の一日に施設の空き状況を公開していると思う。一日に公開され翌月に斡旋してもらおうが、十日までに申込みをしないと翌月は斡旋されない形になっていると思う。保護者は、一日に空き情報を知る方は良いが、申込みの締切までの日にちが短いと思う。事業者に転園するというお知らせが来るのが毎月二十日前だと思うが、事業者に知らせる時点で来月の空き状況を教えてもらえれば、保護者に周知することができ、保護者も少し余裕を持つことができる。保護者と事業者のどちらにもなるべく早い時期に空き状況を公開したほうが良いのではないか。 |
| | | 具体的な取組の事例紹介について |
| 15 | 保護 | 10の項目の取組を具体的に伝える場所は、区職員が巡回して具体的な取組を取材するわけにもいかないと思う。できることとしては、区内の保育園や保育ママが保育雑誌やウェブメディアで取り上げられたときに、掲載された記事のURLをフェイスブックへ掲載する、もしくは、保育施設が自己PRを掲載するくらいだろう。ただし、自己PRは特定の施設が投稿することはどうかと思うので悩ましい。 |
| | | 見学体制について |
| 16 | 事 | あくまでも認可保育園の見える化について議論する会議ということか。 見学体制については毎月何日に行うと決めておけば良いと思う。 |

| | | |
|------------|----|--|
| 17 | 保護 | 複数の施設を見学した。育児休業中や復職後に転園したので、働きながら見学した園も複数あった。園によっては日にちを指定して、一日に何十人も設定していた。保育園ごとに面積が違うので、一度に何十人も受け入れることができない園もあると思う。何時くらいであればいつでも良いなど個別対応をしてくれた園もある。働きながら見学しなければならない方や、見学日に仕事の休みを合わせることができない方の場合を考えると、日時を指定されてしまうと逆に見学しづらくなるのではと心配である。事業者からしても、1回に受け入れることのできる人数が施設によって違うと思うので、同日に同じ人数が回る設定は難しいのではないかと。園によっては、一人ずつ来てもらうほうが良い場合もあるかもしれない。本当に良くなることばかりなのかと心配である。 |
| 18 | 事 | 見学をしていないところもあるとの話があり驚いた。見学の方法は施設ごとだが、個別であればこの日にちが大丈夫、何曜日は大丈夫という話を必ずする。基本的に練馬区の保育施設は見学ができることをしっかりとPRして、開かれた保育施設を事業者も努力していかなければならない。 |
| ICTの活用について | | |
| 19 | 事 | 20の項目のICT活用はとても難しいと思う。電子連絡帳やこどもの様子の写真を親へ送るものがあるが、身内の方には送っても良い、3親等までは登録して写真を送っても良いなど制限をしなければならない。認可保育園ではとても厳しくスマートフォン等での撮影を制限しているようなので、インターネットに容易に公開できる状況には気をつけなければならないと強く思っている。 |
| 20 | 保護 | 20の項目のICT活用について、区としてこどもの安全を守るために積極的にICTを活用していくなど、求めるICT活用レベルの指針を示してほしい。保育士も人間なので、チェックがおざなりになってしまうときがあると思う。こどもの服にセンサーをつけて、昼寝のときに仰向けになっているか、横向きになっているかを5分ごとに知らせしてくれる機能など、機械が得意なところは機械に任せて、保育士にはこどもと向き合うことに時間を使ってもらいたいと親としては考える。練馬区としてICT活用でしたいことの指針を示してほしい。事務作業や昼寝チェックも保育士の大事な仕事だが、それだけに時間を割かれるのではなく、こどもとの触れ合いに時間を使うという方向を示したほうが良いのではないかと。 |
| 21 | 保護 | リアルタイムでこどもの様子を見られる仕組みに、説明を求められる職員の負担増の可能性とあるが、利用者とのコミュニケーションはまさに見える化の目的なのではないか。負担と捉えることは会議の目的と方向性が違うと思う。利用者に対して一連の流れを説明する必要があるのであれば、しっかり説明して互いの理解を深めることが見える化につながると思う。 |

| | | |
|-------------|----|---|
| 22 | 事 | <p>午睡時の管理をする機械や日誌をつけるものなど、色々なものがICTで出てきている。導入する際に補助金が出るなどしているが、機械はバージョンアップが必要になる。ノートパソコンでも対応OSのバージョンが7から10に替わる場合は買い替えなければならぬなど継続的に対応が必要になる。ICT化が全て悪いとは思わないが、使いこなすことと制限すべき情報など使い方を学ぶ必要がある。保育園の運営で収入がほとんど変わらない中で、更新のための固定費の増加への補助もしてもらいたい。機械に任せられるところは任せることも考え方の一つではあるが、保育士としては自分の目で見て感じる直感が養われるような環境でありたいと思う。とはいえ、職員のスキルアップと負担の間で、どうしたら良いかは現場も悩んでいるところかと思う。</p> |
| 見える化を支える仕組み | | |
| 23 | 保護 | <p>24～27の項目について、保育園同士の連携の目的は、園や職員のレベルアップだと思う。保育に対するレベルアップや、保護者に対して保育はこうすると良いということも伝えてほしい。保育だけではなく、体力づくりや親の不安なども聞くレベルアップをしてほしい。交流会や勉強会のイメージがあるが、それだけで終わらずに複数の保育園が一緒になって保護者に対しての勉強会を企画し、実施することを期待する。</p> |
| 24 | 事 | <p>各保育施設の連携としては、職員の勉強会を行うこともとても大事である。具体的な保育に関しての研修会だけでなく、近隣の保育園に月1回給食を食べに行く、身体測定をしてもらう、年に2回は園児の健康診断を受けるなどしている。園によって対応が異なることがあり、ある保育園では、給食はこどもと触れ合って食べるが、別の保育園では事務所で給食を食べるなど色々である。また、こどもたち同士の交流や、地域でこどもを見てもらう、保育園のこどもと保育ママも交流を行うなど、公園で会ったときに「ああ、どうも」と声をかけ合えるように連携をしている。保育園ごとのやり方で差があることは問題と日々感じている。園長間は園長会で、保育ママは保育ママの集まりがあるが、異なる事業者の責任者同士のつながりの場がまるでない。情報交換することで同じような連携がとれていくのではないかと。地域で様々な種類の保育施設が集まるので、施設ごとや地域ごとの集まりがあると良い。</p> |
| 25 | 保護 | <p>26の項目の人事交流について、課題に区主導の取組が必要とあるが、仕組みづくりの方向性では事例紹介とあり、及び腰で控えめである。区が主導で窓口になり交流を促していく必要がある。事例紹介に留まっていたら変わらないと思うので、表現をもう少し踏み込んだものにできればと思う。また、転職につながらないような一定のルールが必要とあるが、何を目的に交流するかを打ち出して、交流後に持ち帰って自分の園を良くしていく、変えていくことができるような人材を交流させなければ意味がない。どういう人材を交流させたいかを指針として示す必要がある。変えたいという意思があり、変えていく力もある現場のエキスパート、園長に物を申せるような人材を互いに出し合い交流するべきである。</p> |

| | | |
|----|----|--|
| 26 | 保護 | <p>23、28の項目について、現状、保育ママに預けるためには休みのとりやすい働き方をしていないと利用が難しい。以前、保育ママが親の不幸で緊急に保育できなくなり、預けられなくなったことがあった。そのような場合に仕事を休めない状況の人は、保育ママは選択肢とならない。働き方にかかわらず保育ママが多くの人々の選択肢に入るよう、バックアップ体制を整えてほしい。</p> <p>24、25の項目について、現状、区は、10年目の保育士を対象に、大学に行って大学の先生をコーディネートしたワークショップやケーススタディをするような研修を行っているのか。</p> |
|----|----|--|

副会長からのご意見（要約）

非常に前向きな、どうしたら仕組みづくりがうまくいくかの具体的な方法論や、事業者の状況の中でどのような留意点が必要になるかの細かな意見があった。改めて、何のために見える化をするのかの根本が重要だろうと今日の議論からも思った。見せると見るの両者がいるが、その透明化が図られることで互いを理解し合う部分が大事なところだと改めて感じた。見せることは見られることであり、見せることでの色々な負担感もあると思う。一方で、見たい側からすれば見えないことが不安を呼ぶところだと思う。その中で、マイナスの議論ではなく、見えることによるお互いの利点の議論が深まってきたと感じている。改めて基本となる考え方を確認することが大事だと思う。出てきた方向性の中では、色々で見せることによりかえって誤解が生まれるのではないかと、という意見も出た。そのような誤解が生まれないよう、理解し合うために行うことと捉えていくことが大事である。見る側も理解したいという思いであり、決して負担を与えるために見たいのではない。あくまでも、負担のない形が基本にあることが意見で出た。負担のない形でいかに仕組みづくりができるかが重要である。行政がどう支えるかの具体的な議論がたくさん出た。理解し合うという見える化の重要なベースとなる考え方を基本におきながら、見える化がより理解し合えるような形で支える行政、仕組みづくりが進んでいくと良い。